

心理学Ⅱ

科目ナンバリング PSY-102

【Ⅱ】 選択 2単位

新原 将義

1. 授業の概要(ねらい)

我々の社会には、心理学のコトバが溢れている。学校では「学び」や「理解」を求められ、足し算から四則演算、九九、鶴亀算と、徐々に難しくなっていく「発達段階」に合わせられたカリキュラムを受ける。喧嘩をすると、先生たちはお友達の「気持ち」を「考える」ことの重要性を説く。「思春期」を迎えると、私たちは「恋」に落ち、その「思い」を伝えるか伝えないかに頭を「悩ま」せる。就職活動では、会社は私たちがどのような「スキル」を持っているのか、仕事にどのような「モチベーション」を持っているのかを問う。そして大学でも社会でも、あるいは家庭でも、私たちは「空気を読む」ことを求められる。このように我々の生活は、心理学のコトバなしではもはや成り立たない。社会が「心理学化」されていると言ってもよいだろう。

この授業では、前期「心理学Ⅰ」(新原将義担当)から引き続き、心理学の基礎知識だけでなく、我々の日常生活のなかにあふれる様々な事象から、「心理学化」された世界と我々の関係について考える。特に後期の授業では、「コミュカ」「知能」「アイデンティティ」の各トピックに取り組む。

またこの授業では、SNSを用いて、教員と学生がリアルタイムでやり取りをしながら講義を進めていく。各自、スマートフォンを持参して授業に臨むこと。

なお、この講義の内容は春期開講の「心理学Ⅰ」(担当:新原将義)の内容と大きく関連する。よって「心理学Ⅰ」との連続受講を推奨する。

2. 授業の到達目標

①学生は、文化心理学とはどういう考え方なのかについて説明できる。

②学生は、自らの日常生活について、社会構成主義の観点から振り返り、他者に説明することができる。

3. 成績評価の方法および基準

期末テスト 100%

4. 教科書・参考文献

教科書

新原将義 「脱・心理学」入門—10代からの文化心理学 北樹出版

5. 準備学習の内容

準備学習については、授業内で適宜指示を行う。

6. その他履修上の注意事項

本授業では、TwitterなどのSNSを用いた対話形式の講義を行う。各自スマートフォンを持参するほか、必要であればモバイルバッテリーなどを用意すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 コミュニケーションの基礎
- 【第3回】 「適応のロジック」と「省察のロジック」
- 【第4回】 「越境」のコミュニケーション
- 【第5回】 「境界」とコミュニケーションの意味
- 【第6回】 PISA型学力と新自由主義
- 【第7回】 誤用された「知能」
- 【第8回】 知能検査と文化的多様性
- 【第9回】 文化心理学から考える「かしこさ」
- 【第10回】 アイデンティティ入門
- 【第11回】 アイデンティティの政治学
- 【第12回】 beingな自分とbecomingな自分
- 【第13回】 「発達段階」は発達のか
- 【第14回】 パフォーマンスと遊び
- 【第15回】 期末試験